

地域の多様性の歴史を学び理解を深めるセミナー

第三回「中国帰国者を取り巻く経緯と現状」

- ・ 中国帰国者(日中国交回復後に壮年期を過ぎて日本への帰国を果たした中国残留孤児・婦人とその家族)は日本語習得や就労面、差別など様々な困難を経験し、現在では高齢化による医療や介護の課題にも直面しています。
- ・ 終戦から年月が経ち戦争の記憶が薄れ、中国帰国者は日本社会で見えにくい存在になりつつあります。地域の活動に関わる方々に歴史的背景を踏まえ、権利の保障や多様性の尊重など「多文化共生」に必要な視点を考えてもらえればとセミナーを企画しました。

おねかけ ただし

講師：宗景 正氏(コスモスの会 尼崎日本語教室代表)

<プロフィール>

1947年岡山県生まれ。岡山県立高松農業高校を卒業。66年 塩野義製薬(株)に入社、会社勤務のかたわら、尼崎市にある夜間中学の生徒たちを撮影・取材。日本リアリズム写真集団視点展、DAYS JAPANに夜間中学の作品を発表。2005年退職後、高文研より「夜間中学の在日外国人」を出版し、東京コニカプラザを皮切りに関西各地で写真展を開催した。

06年、毎日新聞樋口岳大氏と共に中国残留孤児を取材し関西の各地で写真展を開催、08年、樋口岳大氏と共著で「私たち『何じん』ですか」を高文研より出版、同時期に取材した兵庫県から満洲に送りだされ、戦後「草加野」(兵庫県小野市・三木市)に再入植した開拓民のルポルタージュを「『開拓民』国策に翻弄された農民」として12年高文研より出版した。13年～14年「写真リポート、三陸海岸の街や村はいま -大震災から2年-」を関西各地で展示した。14年は「ハクスブルク王朝の彩と戦争の記憶」、15年は「大戦から70年「戦争の記憶を伝える」(いずれもナチス・ドイツの戦争遺跡を中心に取材)の写真展を開催した。

現在、中国残留日本人支援団体「コスモスの会」尼崎日本語教室の代表を務める傍ら、中国残留日本人孤児が生じた中国・「旧満州」の取材を続けている。



<概要>

日時：2022年1月30日(日)14:00-16:00(ご講演90分+質疑応答)

方式：会場(ふたば国際プラザ)とオンライン(ZOOM)の併用

会場：ふたば国際プラザ(神戸市長田区二葉町7-1-18ふたば学舎1-5)

参加費：500円 定員：50名(会場：30名) 申込締切：2022年1月23日(日)

対象：日本語教室に関わる方やボランティア希望の方、関心のある方など

<申込み方法>

①お名前、所属、連絡先、参加方法をGoogleフォームまたは電話、メールでご連絡ください。
Googleフォーム<<https://forms.gle/xGjunV4DxwfBNr877>>

②参加費について

-会場参加の方は当日お支払いください。

-オンライン参加の方は、事前にふたば国際プラザでお支払い頂くか、お振込みください。
入金確認後、一週間以内に受付完了の旨ご連絡します。(手数料はご負担ください)

振込口座：ゆうちょ銀行438 普通6055372 特定非営利活動法人 神戸定住外国人支援センター



<主催・お問い合わせ>

特定非営利活動法人 神戸定住外国人支援センター(KFC)

〒653-0038 神戸市長田区若松町4-4-10アスタクエスタ北棟502

TEL：078-612-2402 E-mail：oishi@social-b.net 担当：大石貴之